

第六回 お薬の話いろいろ

1. 薬の役割

①症状を軽くする薬

かぜ薬や、解熱薬、鎮痛薬などは、症状を軽くしてくれますが、病気を治す薬ではありません。症状に対して用いるので、「対症療法薬」と呼ばれます。これらの薬は、お子さんの症状が改善すれば、保護者の判断で「途中で止めてもよい薬」と理解して下さい。

②根本的な治療の役割を持つ薬

抗生物質や気管支喘息の長期管理薬(吸入ステロイドやシングレア)などは、より治療の根本にかかわる重要性を持っています。これらの薬は、医師の指示通りに続けることが原則です。その他、抗てんかん薬などの特殊な薬も、規則正しく服薬することが重要です。



2. 薬の飲ませ方・総論

さて、薬を飲むのが上手な子供もいれば、苦手な子供もいます。苦手な場合は、保護者の方々はとても苦労しますね。お子さんに薬を上手に飲ませる心構えを、いくつかお話します。

①飲ませ方は「ルール無し」で

処方箋には、食前、食後などの服薬時間の指示が付きまします。

しかし小児では、それを守ると却って服薬が難しいことがあります。例えば乳幼児では、哺乳後や食後の満腹時では、いくら美味しい薬でも拒否するかもしれません。ですから、そういう時は空腹時に飲ませても大丈夫。薬が口に入らなければ、治療のスタートラインに立てないからです。



②必ず味見をしましょう

子供に飲ませる前に、保護者が必ず薬の味見をして下さい。この「親による味見」が、意外にされていないようですが、実はとても大事なことです。美味しくする工夫も、現場の判断としては何でもありです。(薬剤師さんには怒られるかもしれませんが) 何と混ぜても OK です。美味しく飲める工夫をしましょう。

③飲めたらいっぱい褒めること

薬が飲めたら、大喜びしてみせて、思いっきり褒めましょう。いわゆる「行動療法」の手法です。親が喜んで、褒められれば、お子さんもきっとやる気が出て、また飲んでみようと思うのです。



④「わがまま」に負けない

味見をしたら、ちゃんと美味しい味になった。それなのに飲んでくれない。何故？ お子さんは、「わがまま」を発揮して、薬を拒否することもあります。それなら、すぐギブアップせず服薬させましょう(親の腕の見せ所です)。苦い薬を飲めないとしたら、それは「わがまま」とも言えませんね。薬の味を知ることは、そういう意味でも大切です。

⑤「美味しい薬」と「苦い薬」は別々に

医師の側としては、薬はなるべく味の良いものをと心がけています。しかし、中には重要な薬で、かつ、どうしても「苦い薬」があります。これを知らずに、服薬時すべての薬を一緒に混ぜてしまうと、全部が苦くなってしまいます。苦い薬は、その都度お知らせするようにしています。やはりここでも、飲ませるときの味見と工夫が必要となるのです。



3. 薬の飲ませ方・各論

ここからは、剤型の特徴を中心に、薬局の薬剤師さんに説明してもらいます。

☆薬の種類と飲ませ方・使い方☆

	シロップ	散剤	ドライシロップ	錠剤・カプセル	坐薬	チュアブル錠
剤形						
特徴	飲みやすくするために甘味や香料を加えた液状の薬です。	体内に吸収されやすく、シロップに比べ保存性もよい。複数の薬を1袋にブレンドして出される場合があります。	抗生剤など苦くて飲みにくい薬を甘く、飲みやすくした細かい粉状の薬です。	保存性がよく、コンパクトだが、間違えて気道に入ってしまうことがあるので、小学生くらいから処方されることが多い。	肛門から入れ、直接粘膜から吸収される薬です。吐き気や発熱で薬が飲めない時に処方されることが多い。	錠剤が飲み込めないお子さんでもかんだり、なめて溶かして服用することができる錠剤です。
基本的な飲ませ方・使い方	よく振って哺乳瓶やスプーン、スポイトなどで飲ませる。	粉のまま口に入れるのを嫌がる小さな子の場合①少量の水で練って頬の内側や上あごに塗りつける。②水に溶かしてスポイトで吸い上げ、口の中に流し込む。③味を隠すためにアイスクリーム、プリン、ヨーグルトなどお子さんが好む食べ物に混ぜる。	そのままでも散剤と同じように飲むことができます。水に溶かすとシロップ剤になるので、服用ごとに、1回分ずつ溶かして服用することができます。(溶かしたまま長時間放置すると効き目が落ちたり、雑菌が増えてしまう場合があります。)	先に口の中に水を含ませてから上を向かせ、その中に浮かべるように薬を落とすとうまく飲ませられます。飲んだ後、口の中やのどに残っていないかチェックして下さい。寝た状態で飲ませると、のどにひっかかって窒息する危険があるので必ず座らせて飲ませて下さい。	坐薬の先に水やベビーオイルなどをつけて滑りをよくし、おむつ替えの要領で足を上げて肛門へ挿入します。その後、1～2分くらい、指で肛門を押さえるか、下痢気味の時などはおむつの上から押さえて下さい。	口の中でアメをなめるように溶かしたり、水なしで飲んで服用します。普通の錠剤のように水で飲むこともできます。

※坐薬を半分(2/3なども)にして使うように言われたときは、横に対して斜め切りして下さい。
坐薬は挿入側と下側で大きさが異なるため、横まっすぐに切ると半分になりません。

☆よくある質問・疑問☆

① 薬を食べ物や飲み物に混ぜる際の注意点は？

- 散薬とシロップが一緒に処方された場合、飲む時間が一緒なら混ぜてもOKです。しかし、薬によっては混ぜてはいけないものがあります。例えば、抗生剤の多くは酸味のあるもの(ヨーグルト・スポーツドリンクなど)と一緒に服用すると苦味が増すことがあります。また、“ムコダイン”という痰きりの薬にも酸味があるため、抗生剤と一緒に飲むことで苦味が増すことがあります。
- 混ぜる食べ物の量が多すぎると全部食べきれないことがあるので、薬を混ぜる食品の量は少なめにしましょう。
- 水に溶けにくい散剤は飲み物に混ぜるより、アイスクリームなどに混ぜたほうが良いこともあります。(チョコ味のアイスに混ぜるとカカオの苦味で薬の苦味が感じにくくなります)
- ミルクに混ぜたり、乳首の先に薬をつけて飲ませるのは避けましょう。ミルクや母乳自体を嫌いになって栄養をとれなくなる危険があります。



② 坐薬を入れたけど、お尻から出てきてしまった!! どうするの？

- 入れてすぐ出てしまったり、坐薬が丸ごと残っているようなら再度入れなおして下さい。入れてから10分以上たっている。または、半分程度溶けているような時は一部が吸収されている可能性があるためそのまま様子を見て下さい。

③ 吐き気止めと熱さましの坐薬を一緒に使いたいときはどっちがさき？

- 1時間以上の間隔が空いていればどちらを先に使っても構いませんが、両方一緒に使う場合は、吐き気止めの坐薬を入れ30分くらい経ってから解熱剤を使ってください。解熱剤を先に使うと、吐き気止めがうまく体内に吸収されない場合があります。

④ 解熱剤を使う目安は？

- おおよその目安は38.5度以上です。しかし、発熱は異物と戦うために起こっているものなので、無理に下げる必要はありません。本人の状態を見てぐったりしていたり、食欲がなかったら使うようにしましょう。

⑤ 以前もらった薬は使っているの？

- 小児の薬は体重などから量を決めています。子供は体重が日ごとに増えていますので残っていた薬は使わないようにしましょう。



小児科部長 上田 大輔 (最終更新日: 2021.3.1)